

花咲き山



校長だより

2016(H28)11.25

道徳教材のご紹介

道徳の教材で、「はしの うえの おおかみ」というものがあります。1年生を対象に、「思いやり・親切」を価値項目として利用される教材です。しかし、それ以外にも深く考えさせられるお話ですので、ご紹介します。

「橋の上のおおかみ」 奈街三郎 作

一本橋がありました。

うさぎが渡っていくと、向こうからおおかみが渡ってきました。

「こらこら、もどれもどれ。おれが先にわたるんだ。」

おおかみが、こわい顔で、どなりました。うさぎはびっくりして、すごすごと後へ戻っていきました。

「えへん、えへん。」

おおかみは、このいじ悪がとてもおもしろくなりました。

それから、きつねが来ても、

「こらこら、もどれ、もどれ。」

たぬきが来ても、

「こらこら、もどれ、もどれ。」

と、追い返してしまいました。

ある日、大きなくまが橋を渡って来ました。おおかみはあわてて言いました。

「わたしがもどります。」

くまは手をふって言いました。

「ほら、こうすればいいのさ。」

くまは、おおかみを抱き上げると、後ろにそっと降ろしてやりました。

おおかみは、くまの後姿をいつまでも見送っていました。

次の日、おおかみは、橋の上でうさぎに会いました。うさぎはあわてて戻ろうとします。おおかみは、優しく呼びとめました。

おおかみは、うさぎを抱き上げ、後ろにそっと降ろしてやりました。

おおかみは、前より、ずっといい気持ちでした。



自分の力を誇示することで、自尊感情を高めてきた狼が、自分より力の強い熊の優しさに触れたことにより、人の役に立つことで自尊感情を高める狼に変わった。このような視点でこのお話を読み解けば、とても深く考えることができ、1年生以上の子どもたちにも使える教材になると思いました。